



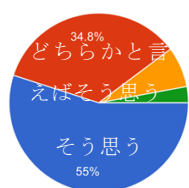
# 一西だより



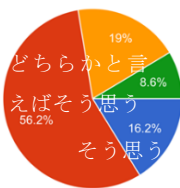
豊川市立一宮西部小学校通信  
令和8年1月8日 第26号  
発行;校長 村上謙一

あけましておめでとうございます。昨年は大変お世話になりました。令和8年を迎えました。皆様にとって、ますます良い年となることを心から願っています。

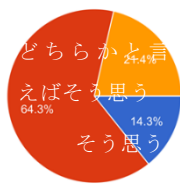
さて、本校における昨年の大きな変化は「3年生以上の普通学級におけるチーム担任制の導入」でしょう。2学期の学校評価アンケートの「チーム担任制は子供たちのためになっている」についての回答から分析しました。集計結果は以下の通りです。



児童



保護者



教職員

子どもたちの満足群は1学期を大きく上回り、「そう思う」が55%、「どちらかといえばそう思う」が34.8%となりました。満足群としては89.8% (1学期は87.4%)で概ね9割に及びます。

保護者の満足群は1学期75.6%から2学期72.4%に微減、教職員は1学期68.4%から2学期75%に増加です。教職員の満足群増加の要因は「チーム担任制で当てはまると思うこと」の回答から見えてきます。(※これらの詳細は本紙とは別に「2学期の学校評価アンケート」でご確認ください)教職員は「多面的な理解が進む」について52.6%から70.8%に大幅に増加しており、これは毎日の情報交換を行うことによる実感なのでしょう。また、「連絡や相談をだれが受けるかの心配」については、63.2%から29.2%に半減していて、実際の運用がうまくいっていることを表しています。新しい取組には不安が伴います。それゆえに多くの組織が現状維持を選んでしまいがちです。本校は、この取組が子どもの幸せにつながるはずだと考え、チーム担任制に挑戦しました。この挑戦が今のところ間違いではなかったと理解しています。私としては、やってみないと見えてこない景色(想定を超える子どもの姿や大人のかかわり)があることが実感できたことが何よりもの学びです。ただし、不安群が0ではないことを忘れず、この取組が、だれひとりとり残すことがないシステムとなるよう、今後もトライ＆ランで進めていきます。令和8年も本校の取組について変わらぬご理解とご協力をいただけるよう、よろしくお願いいたします。

## 【見えない学力とは】



昨年12/10(水)、ダンスプロジェクト(発表会)が昼放課の体育館で行われました。全16チームが出場しました。最年少は2年生のチームです。ダンスの練習だけでなく、ステージの企画・運営まで全て子どもたちがやりとげました。ステージを終えたある子は「先生、なんか涙が出てきた」とつぶやいていました。私は自分が小学生のころに、物事をやりとげて涙を流したことはありません。保護者のみなさんや先生方はいかがですか。2年生でそんな経験をしたならば、卒業するときはどんな主体性を備えた子どもになるのでしょうか。子どもたちの「やりたい」ができる学校は、「やったらでははずだ」「やったらよろこばれた」「やってみよう」「やりたい」といった「見えない学力」を育てていると思うのです。

## 【表彰】

子どもたちのがんばりが認められています。

- ① 文詩集「みかわの子」 入選  
3年1組 長坂和花さん  
4年3組 黒寄月己さん
- ② ごみ啓発作品コンクール 書道の部 銅賞  
4年1組 生田 歩璃さん
- ③ 赤い羽根共同募金コンクール ポスターの部 佳作  
5年3組 山本 陽向さん  
3年3組 伊藤 大生さん

## 【学びの広がり】

本校が取り組む「チーム担任制」について、共に学ぶ仲間が広がっています。

来年度からチーム担任制を導入する、和歌山県の小学校が本校の取組を参考にされています。交流をもって共に学ばせていただいています。

また、本校が参考にした前京都市立岩倉北小学校長の三浦清孝先生が、本校の導入後の様子を学びたいと、近く視察にお越しになるとのことです。

他にも各所からお問い合わせや取材の依頼をいただき、これらへのお応えをすることで、これまでの取組を整理することができているようにも感じます。論語「子曰く 学びて時に之を習う またよろこばしからずや。友有り、遠方より来る。また楽しからずや」の心境です。